



希望の鐘 2023

2023.7.20

No.7

やる気、思いやり、根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、自ら学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長の独り言～

大人にとっての“夏休み”とは

あつという間に1学期が終わりました。お子様の様子、いかがでしたでしょうか。特に1年生にとっては4月に大きく環境が変わり、保護者のみなさまにとって、「うまく学校生活に馴染めるか」「友だちとはできるか」など、大きな不安があったことと思います。それでも、毎日歩いて登校しているうちに、友だちに誘われて遊んでいるうちに、少しずつ学校にも慣れ、体も成長し、たくましくなってきました。そんな1学期の登校が今日で一旦終わり、いよいよ42日間の長い夏休みが始まります。

この夏休み、ある児童の言葉を借りると「毎日が日曜日」だそうです。もちろん、ご家庭の事情で、学校ではなく児童クラブ等で過ごす子どもたちもいますので、一概に言い切れませんが、子どもたちの学習・生活の場が各ご家庭へと変わることを意味します。そこで、この長い夏休み、大人にとってどのように対応すればよいのでしょうか。

大切になってくるのが、各ご家庭でのルールについてです。大事にさせていただきたい一つ目は、生活のリズムを守るルールづくりです。大人が一方的にルールを決めて守らせるものではありません。しっかりとお子様と話し合っただけで子どもたちの思いと折り合いをつけながら、達成できそうなルールにすることが、子どもたちが守ろうとする意味のあるルールとなるようです。話し合いにしっかりと時間をかけ、子どもたちの主体性に任せる、そんな夏休みにさせていただきたく思います。

もう一つ、大人にとっての夏休み。それは、お子様と過ごす時間を確保していただくことです。子どもたちを取り巻く環境は、「無限」「受け身」「瞬間」がキーワードの世の中です。「無限」に広がるインターネットの世界には多くの情報があふれ、その中に子どもたちは身を置きがちです。SNS、YouTubeなど、大量の情報に「受け身」になり、考えることから遠ざかっていきます。「瞬間」に答えを導き出せますので、我慢は苦手。時間のかかることは「面倒臭い」の一言で片づけてしまいがちです。そんな環境に生きる子どもたちであるからこそ、直接的なつながりを大切にさせていただきたいのです。

「つながり」の捉えは、大人と子どもでは異なります。どこかに出かけ、様々な体験を共にする、長い休みですので、それもいいでしょう。しかし、それ以上に、日常の何気ない会話やふれあいを大切にさせていただきたいのです。

大人の夏休みは、どちらもお子様としっかりと向き合っただけでいいので、家庭というバックボーンが充実することで、子どもたちは学校で精一杯力を発揮します。そのエネルギーをしっかりと蓄える、そんな夏休みにさせていただきたいのです。

9月1日にはたくさんのお子様の笑顔と出会えますよう、ご協力お願いします。

地域の方からのお話です。

ごみの回収日にごみを運んでいた時のこと。こんな声をかけられたそうです。「おばちゃん、ごみを運んであげるわ。」よく見ると、小学生の男の子が二人、近寄ってきて持っていたゴミを集積場まで運んでくれたそうです。そんな優しい子どもたちが育っていることに喜びを感じていただいたと同時に、もっと早く学校へ伝えればと、後悔されていました。とてもうれしいお話をさせていただきました。

